

フクロウのヒナ、その後・・・

7月16日(水)、山階鳥類研究所の職員の方から「鳥博裏山の巣箱の上にフクロウのヒナが2羽乗っているよ!」との情報が入りました。

さっそく、確認してみると、まだ幼綿羽が残る2羽のフクロウが、巣箱の上にちょこんと乗っかっていました(写真1、2)。

独立木のわき枝の無い幹の地上5メートルくらいに架けた巣箱です。その上に乗っているということは、もうかなり飛べるようになったものと思われます。

フクロウのヒナは、巣立った後3ヶ月くらいは、巣箱近くの親鳥のなわばり内にとどまり、親の世話を受けます。

6月14日に巣立ってから約1ヶ月。あと2ヶ月くらいは、巣箱のまわりで親から餌をもらってすくすく育ち、やがて独立するのでしょう。

また、7月4日に、鳥研の職員の方から「フクロウのペリットを拾ったよ」ということで、もらい受けました(写真3)。早速分解してみると、ムクドリのアシヤ、スズメの頭骨、その他小鳥の骨格片、カブトムシの脚や翅などが含まれていました(写真4)。フクロウの成鳥は、餌の小鳥などは丸飲みするので、ペリットにも、胸骨や腰帯などの骨が含まれているはずですが、今回のペリットには、各小鳥お骨の一部分しか含まれていません。もしかすると、親鳥がヒナに餌をむしって与えたのかな?との推測も考えられますが、どうでしょうか?

まだまだ分からないことが一杯です。



写真1



写真2



写真3



写真4